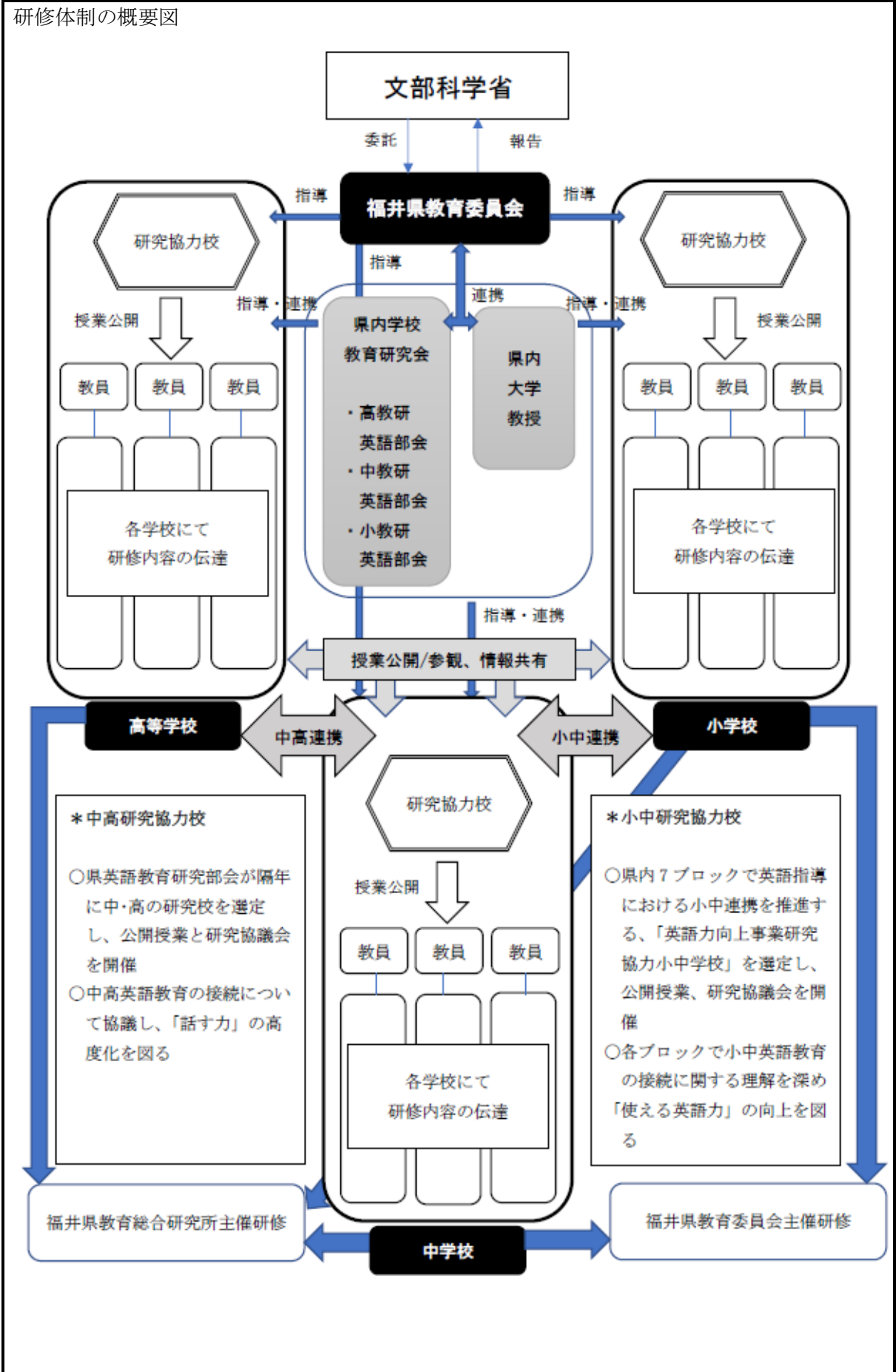


福井県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



福井県では、小中において英語力向上事業として県内各ブロックの小中学校から研究協力校（中学校8校、小学校15校）を指定し、それぞれの校種における英語教育の推進、小中接続した指導のための研究を進める。各ブロックの小学校教員、中学校英語教員は研究協力校が開催する公開授業と研究協議会に参加し、英語教育の連携を推進する。

中高においては、県内英語教員が属する福井県英語教育研究会が主催となって隔年毎に中・高の研究協力校を選定しており、県内中・高英語教員は協力校が開催する公開授業と研究協議会に参加し、4技能統合型の指導や話す力の育成に向けた指導の接続を図っている。

いずれにおいても、参加者は所属する学校で校内研修を実施し、授業や研究内容について共有することで英語教育に関する研鑽を行っている。

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

「公立小学校、中学校および高等学校における英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行うこととする。

(小学校)

○教員の英語力について

授業における言語活動の充実に向け、小学校教員の英語力向上に関する県作成教員用ハンドブックを作成、配付する。研修等でクラスルームイングリッシュの活用法等を示し、2022年度には、外国語科における授業中の英語使用状況50%以上を目標とする。

○研修実施回数および研修受講者数について

2019年度の県教委主催研修実施回数は、2回と設定する。また、研修受講者数については、380名とする。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で示す。

(中学校)

○教員の英語力について

CEFR B2 レベル相当以上の英語力を有する中学校英語教員の割合は、全体の58.7%で、目標値63.0%を達成することができなかった。2019年度の目標を60.0%と設定し、求められる英語力に達していない教員に対しては、自身の英語力向上に向けた取り組みとして外部検定試験の受験を促していく。

○生徒の英語力について

CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有すると考えられる中学生の割合は、全体の61.2%で目標値の63.0%を達成することができなかった。2019年度は、61.5%を目標値として設定する。本県では中学3年生に年1回の外部検定試験の受験料補助を行っているが、補助を利用しなかった生徒や、英検4級までの受験でとどまる生徒が多かったことが目標値に達しなかった要因の一つとなっている。

今後は、1年生から豊富な語彙や表現に慣れ親しませることを目的とした、県作成英語教材の授業等での活用や県教委主催の外部検定試験対策講座への参加などにより、3年生時には自信をもって目標レベルの外部検定試験を受験、取得できるよう計画的に英語力をつけていく。

○学習到達目標の整備状況について

公表については16.4%、達成状況の把握については46.6%という状況である。学習到達目標については、これらの項目で高い数値を達成することも重要であるが、教師はもちろん、生徒や保護者にとってわかりやすく、生徒が学習していく上での明確な指標であることも大切であり、状況に応じて内容を改善していく必要がある。市町教育委員会と連携し研修等で学習到達目標の公表、達成状況の把握について改善を図っていく。

○パフォーマンステストの実施状況について

ほとんどの中学校において、年間3～4回程度のパフォーマンステストを実施している。福井県の中学校は地区によって2学期制と3学期制をとっており、定期テストは4～5回の設定が多い。小学校においてもすでにパフォーマンステストを実施しており、中学校において継続して実施することで生徒の話す力を伸ばすとともに、話す力の育成を意識した授業改善も図っていく。

○生徒の授業における英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について

授業に占める言語活動の占める割合については、授業の半分以上の時間を言語活動で行う割合を2022年度までに80%を目標値として設定する。本県はすでに小学校の外国語教育を先行実施しており、小中連携して言語活動を中心に据えた指導の接続を図る上でも英語を使いながら4技能を身に付けていく授業に転換していく。

なお、英語担当教員の英語使用状況については、2022年度までに発話を英語で行う割合50%以上を全ての英語担当教師の目標値として設定する。授業における英語でのやり取りが主活動となるような効果的な発問やテストにおける英語での設問を設定することにより、指導と評価の一体化を図りながら、必然的に英語の使用量が増えるような授業としていく。そうすることで教員の英語力だけでなく、生徒のより豊かな語彙習得活動にもつなげていく。

○研修実施回数および研修受講者数について

2019年度の県教委主催研修実施回数は1回とする。研修受講者数については、75名とする。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で示す。

(高等学校)

○教員の英語力について

CEFR B2 レベル相当以上の英語力を有する高校英語教員の割合は、全体の91.4%であり、今年度の目標値90%を達成した。求められる英語力に達していない教員に対しては、自身の英語力向上に向けた取り組みとして外部検定試験の受検を促し、2019年度における目標値である91.5%の達成を目指す。

○生徒の英語力について

CEFR A2 レベル相当以上の英語力を有すると考えられる生徒の割合は、全体の56.0%であり、目標の52.5%を達成することができた。福井県では、2016年度から中学3年生、高校1、2年生に受検料の全額、一部補助をしており、外部検定試験受験者数や中学校での英検準2級以上取得数が増えている。2019年度以降についても目標値を55%とし、中高連携して話す力の育成や豊かな語彙・表現を用いた英語指導により、英語を使える生徒の育成に努めていく。

○学習到達目標の整備状況について

現在、すべての学校において学習到達目標を設定している。公表については20.9%、達成状況の把握については、51.2%という状況である。CAN-DO形式の目標設定と評価を行うことで、教員が指導の足並みを揃えるとともに、生徒の英語運用能力を向上させていくための授業改善を引き続き推進していく。

○パフォーマンステストの実施状況について

平成30年度は、すべての学科、科目において年間1回以上のスピーキングテストおよびライティングテストを行うことを目標としたが、普通科におけるコミュニケーション英語Ⅲで目標を達成することができなかった。教科の特性に応じて、年間2～3回の実施を目標とし、内容や評価方法についても研修等の機会を利用して改善していくこととする。

○生徒の授業における英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について
言語活動時間の割合については、2022年度までに65%を目標値として設定する。学科や学年において授業内容は異なるが、教科書の内容理解を進めていくだけでなく、題材内容をもとに生徒の意見や考えを引き出し、英語で表現していくことを大切にしたい授業や発問を重視した授業、ディベートなどを取り入れた授業を推進する。

なお、英語担当教員の英語使用状況については、2022年度までに発話を英語で行う割合50%以上を全ての英語担当教師の目標値として設定する。言語活動の授業に占める割合が向上していけば、それに伴い英語担当教員の英語使用状況も改善していくことが見込まれる。英語授業における言語活動の割合を増やすことと連動して、英語使用状況を改善していくように指導していく。

○研修実施回数および研修受講者数について

2019年度の研修実施回数は、1回とし、研修受講者数については、30名とする。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で述べる。

(3) 研修の体系と内容の具体

1. 教員の資質能力の育成にかかる研修

福井県教育委員会は、教員の資質能力の育成に向けて、次に挙げる研修を県教委主催で実施する。研修の評価については、研修後の質問紙調査によるものとし、福井県教育委員会はその結果を検証し、研修の内容や研修時期、回数等の設定を行うものとする。

(小学校)

○小学校教員対象外国語研修（180名参加予定）

- ・小学校外国語教育の全面実施に向け、小学校教員を対象とした研修を開催する。信州大学 酒井英樹教授を講師に迎え、外国語活動の具体的な進め方や基本的な知識等、教科化の目的に沿った指導法を身に付けることを目標とする。

○英語力向上事業研究協力校授業公開および授業研究会（250名参加予定）

- ・研究協力校である県内7ブロック15小学校において、授業公開を行う。同ブロック小学校教員、校区内中学校教員が参観し、研究協議会を実施する。言語活動を中心とした授業づくりや、小中連携した指導の接続の改善を図ることとする。

(中学校)

○中学校英語教員指導力向上研修（75名参加予定）

- ・2019年度は初めて実施される全国学力調査テスト英語問題の結果・分析と併せ、新学習指導要領が求める英語力の育成に向けた研修を実施する。

○英語力向上事業研究協力校授業公開および授業研究会（120名参加予定）

- ・研究協力校である県内7ブロック8中学校において、授業公開を行う。同ブロック中学校教員、校区内小学校教員が参観し、研究協議会を実施する。言語活動を中心とした授業づくりや、小中連携した指導の接続の改善を図ることとする。

(高等学校)

○高等学校英語教員指導力向上研修（30名参加予定）

- ・教科指導を充実するために、中堅英語教員を対象とした研修を実施する。外部機関と連携した指導者として、東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏を招聘予定。

2. A L Tの資質能力の向上にかかる研修

福井県教育委員会は、J E Tプログラム等により113名の英語A L Tを任用している。チームティーチングはもちろん、授業外や学校外の活動にも一層の活用を推進していくために、以下の研修を実施する。

- 外国語指導助手の指導力等向上研修（11月、3月実施 のべ200名参加予定）
 - ・指導能力向上を図るため、A L Tおよび中高英語教員を対象とした研修を行う。
 - 研修後に質問紙調査による評価を行い、次年度以降の研修内容に反映させる。
- A L Tによる授業公開および事後研究会
 - ・A L Tの授業力改善のため、中学校および高等学校のA L Tがチームティーチング授業の公開と事後研究会を実施。（年5回程度実施）

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) A L Tによる授業公開・事後研究会(高等学校)	
7月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月)	
8月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) 小学校教員対象研修 高等学校英語教員指導力向上研修	信州大学 東京学芸大学
9月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) A L Tによる授業公開・事後研究会(中・高等学校)	
10月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) A L Tによる授業公開・事後研究会(中・高等学校)	
11月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) A L T指導力等研修	
12月	英語力向上事業協力校公開授業(6月～12月) A L Tによる授業公開・事後研究会(中学校) 小学校教材活用研修	
1月		
2月		
3月	A L T指導力等研修	
【その他の取組】		

